



スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2019年11月27日発行第104号



Thank you 2019 みんなの忘年会



今年も本当にありがとうございました。
一緒に食事とお酒を囲んで、お互いをねぎらいましょう！
JCIL 本体、ワークス共同作業所、自立支援事業所、
コミュニティサロン・ファーストステップの合同企画です。
自立支援事業所の利用者・介助者のみなさんも一緒に楽しみましょう！

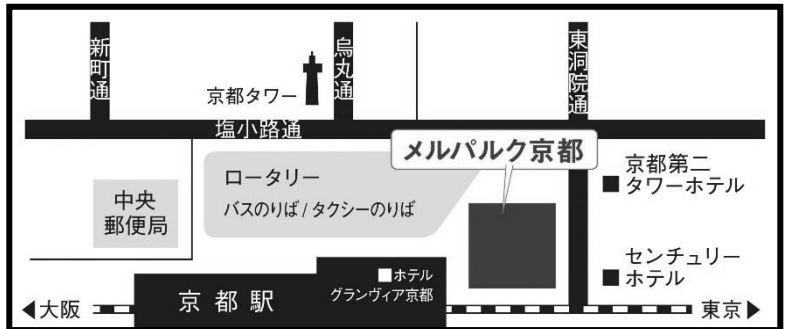


日時：2019年12月12日（木）
18：30 - 20：30（18：00 開場）

会場：メルパルク京都7F「オリオン」

参加費：3,500円
（5,600円のビュッフェ飲み放題つき）

申込み：12月8日（日）まで
下記 TEL・E-mail にて
お申し込みください。



こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに関動か動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。



★ヨガ：全身をうごかすヨガ
日時：12月16日（月）
17：00 - 18：15（OPEN 16：45）
場所：油小路事務所2F
持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物
参加費：無料

*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・春木

TEL：075-682-7950 E-mail：jcil-kyoto@jcil.jp URL：http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html

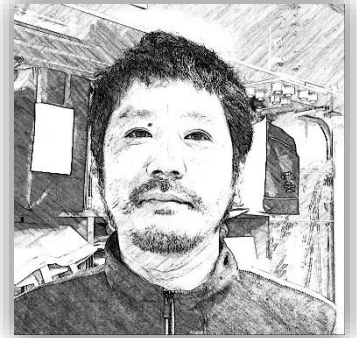
職員紹介 28

10月から職員が増えました。
どうぞよろしくお願いいたします。

職員自己紹介

- ① なまえ
- ② JCILとの関わりはいつから？
- ③ きっかけは？
- ④ どんな仕事をしていますか？
- ⑤ A:大切にしていること B:これからしたいこと

- ① 小川 拓哉（おがわ たくや）
- ② 5月より介助者として働いています。
- ③ 元々、東京で5年ほど介助者として働いており、自立生活センターとの関わりがあったので、地元の奈良で自立生活センターを探したのですが潰れ、そこでJCILに「働かせてくれ」と連絡。
- ④ 11月よりコーディネーターをやっています。
- ⑤ A:無理をしない。
B:慣れたい。



小松食堂

アンケートBOXを小松食堂の時に
置いています。
リクエストお待ちしております！

参加費 三二〇円

どなたでも参加できます。
場所は「松の間」
いずれも一七時から



クリスマスじ付き♪

※ いめーじです

クリスマスイベント
のり巻きいろいろ
チキンナゲット
ポテト
カップサラダ
ガトーショコラ など

十二月の献立
十六日(月)



みなさん盛り上げてくれて、一年間あり
がとうございました。

来てくれてありがとうの感謝をこめて、
16日は、少しプレゼントがあります。

小松



介助現場での
虐待・守秘義務を考える

月1回の事業所職員ミーティングで改めて虐待防止について勉強会を行いました。

虐待を防止するためには…

- 1) 虐待を防止するための体制づくり
- 2) 人権意識、知識や技術向上のための研修
- 3) 虐待を防止するための取り組み

などが必要です。

今回はパワーポイントの資料を見ながら小泉さんからお話があり、その後、事例をもとに4グループにわかれて話し合いました。

- ・気持ちが爆発してしまう前にどこかで悩みを話せたらいい
- ・日頃のイライラや不満をどうやって解消するか
- ・コーディネーターが利用者と介助者双方の状態を把握できているか
- ・介助者の体力や労働条件、介助者不足
- ・障害特性の理解や適切な支援をするための研修があれば

などの意見が出て、活発なグループワークになりました。

身体虐待
・体に傷を負わせる暴行を加えること。
・正当な理由がないのに身動きの取れない状態にすること。
例：平手打ち、殴る、蹴る、つねる 不用な薬を飲ませるなど
サイン：身体にやけどや小さな傷が頻繁に見られる、急におびえたり、こわがったりするなど。

性的虐待
・無理矢理わいせつな行為をしたり、させること。
例：裸にする、性的行為を強要する、キスするわいせつな言葉を使うなど
サイン：ひと目を避ける、部屋に1人でいたがる、肛門や性器から出血や傷がみられるなど。

心理虐待
・著しい暴言や拒絶的な言動や態度などで精神的苦痛を与えること。
例：怒鳴る、悪口を言う、仲間に入れないなど
サイン：おびえる、泣く、叫ぶなどパニックを起こす、攻撃的な態度が見られるなど。

放棄・放任(ネグレクト)
・食事や入浴、洗濯、排泄などの世話や介助をしないで、心身を衰弱させること。
例：十分な食事を与えない、不潔な住環境で生活させる。
サイン：身体から異臭がするなど衛生状態が悪い、ひどく空腹を訴え栄養失調が見られるなど。

経済虐待
・本人の同意なしに財産や年金、賃金などを勝手に処分すること。また、正当な理由がなく、金銭を与えないこと。
例：年金や賃金を渡さない、勝手に財産や預貯金を使うなど。
サイン：お金を使っている様子が見られない、日常生活に必要な金銭を渡されていないなど。

介助の現場では、障害者の人と介助者が長い時間一緒にいます。人と人が同じ場所にいることで、互いにストレスを感じる場面はあるように思います。

「虐待」はしてはいけない。そう頭ではわかっているはずですが、でも、それでも、イライラしたり、カーッとしたりすることがあるかもしれません。

だからこそ、ストレスをためないよう、一人で抱え込むことのないよう、それぞれにいろんな工夫が必要です。

これからもミーティング等の機会を利用して、JCIL 全体として改めて皆さんと一緒に考えていけるようにしていきたいと思っています。

小泉 浩子

シンポジウム

ケアする仕事って、 なんだ？

ソーシャルワーカーの社会的な価値って、どんなの？
 ケアワーカー・ソーシャルワーカーの賃金って、低いの？
 ソーシャルアクションって、どうするの？
 私たちの仕事の可能性はどのぐらい？
 そして、私たちの仕事の限界はどのあたり？
 たぶん、はっきりとした答えは、見つからない。
 だけれど、人の話を聞き、私の話を聞いて
 もらうことには、きっと大きな意義がある。
 ケアを仕事にする人たちの
 “答えのない対話集会”へ
 ようこそ!!!

竹端寛さん
 @兵庫県立大学

岡山祐美さん

@日本自立生活センター

石川三絵さん

@相談支援事業所
 しほふぁーれ

藤田孝典さん

@NPO 法人ほっとプラス

渡邊琢さん
 @日本自立生活センター

2019年 12/7(土) 13:30~17:30 (13:00~受付)

●会場：同志社大学今出川キャンパス 至誠館 32 番教室 ●定員：150 名 (先着順)

●参加費：1000 円 | 学生：500 円

●お申し込み：氏名(ふりがな)、職業、必要な配慮(車いす、手話通訳等)、電話番号、懇親会の出欠を
 件名「シンポジウム申し込み」で carewokangaeru@gmail.com へ送信

主催：シンポジウム「ケアする仕事って、なんだ？」実行委員会 | 共催：同志社大学社会福祉教育・研究支援センター

「地域で暮らす」を知る、考える、広げる 重度知的障害と呼ばれる人たちと 仲間の実践から

2019年12月21日(土)

仲間の実践から

会場：立命館大学 朱雀キャンパス308教室

1部 (10:10~14:00 ※昼休憩含む)

映画「道草」上映&トーク

- 映画「道草」上映
- 対談 矢戸 大裕(映画「道草」監督)×立岩真也(立命館大学教授)
- 参加費 無料

2部 (14:00~17:00)

調査報告とパネルディスカッション

- 知的障害者の自立生活を支えるネットワーク・プラットフォーム構築事業から「関西地区での実践について」
 知的障害者の自立生活についての声明文プロジェクト 田中恵美子(東京家政大学・女性未来研究所)
- パネルディスカッション
 関西で知的障害者の自立生活の実践に関わる人たちがパネラーとして登壇します
- 参加費 500円 (当日受付で支払い)

★ J C I L より中村佳代さん、辻本美貴さん ★

主催 NPO 法人風雷社中 / 共催 立命館大学生存学研究所 / 企画協力 知的障害者の自立生活についての声明文プロジェクト

【申込み方法】12/9(月)17時迄

- ①氏名②所属③連絡先
- ④参加部分：a. 全日参加、b. 上映会のみ、c. 報告会のみ
- ⑤必要な支援をお知らせください。
 (1) メール
 件名：「20191221 地域で暮らすイベント申込」で
 arsevent@st.ritsume.ac.jp へ
- (2) 電話：075-465-8475
 (平日 9:00~17:30)
- (3) FAX：075-465-8245